

「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」 の程度表現について —連体修飾を中心に—

蕭 惠文

1. はじめに

現代日本語における形容詞活用形語「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない⁽¹⁾」は語形および意味用法が似ており、「とんでもない話／とほうもない話／とてつもない話」などのように同一語句と共起することもしばしば見かける。その上、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」はどれも「程度が（常識から外れているぐらい）大きい」という意味に派生して用いられている。また、現代日本語辞書においては、この三つの語はそれぞれの意味記述に他の2語のどれかが意味解釈として使用されている状況も少なくない（例えば、「とんでもない」の意味記述に「とほうもない。」と書かれており、「とてつもない」の意味記述に「とんでもない。」と書かれているというような、いわゆる堂々巡りのものも見られる）。

本稿においては、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」という三つの形容詞活用形語（本稿においては「形容詞」と称する）の連体修飾用法を中心に、「程度が大きいことを表す」という派生的意味での程度表現について考察する。特に、この三つの形容詞が表す程度表現について、「程度が大きい」という派生的意味における差異を明らかにすることを目的とする。なお、管見の限りこの三者を包括的に扱った先行研究は見られなかった。

2. 現代日本語辞書における「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」の意味記述

本節においては、現代日本語辞書（国語辞書）を調査し、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」それぞれの意味記述についてまとめる。

調査した辞書は以下の通りである。

- ・『例解新国語辞典 第四版』（1993）三省堂（以下、『例解新』）
- ・『大辞林 第三版』（2006年）三省堂（以下、『大辞林』）
- ・『新明解国語辞典 第七版』（2013）三省堂（以下、『新明解』）
- ・『大きな活字の三省堂国語辞典 第七版』（2014）三省堂（以下、『三省堂』）
- ・『三省堂現代新国語辞典 第五版』（2015）三省堂（以下、『三省堂現代』）

- ・『日本語 語感の辞典』(2010) 岩波書店 (以下、『語感』)
- ・『岩波 国語辞典 第7版 新版』(2011) 岩波書店 (以下、『岩波』)
- ・『広辞苑 第七版』(2018) 岩波書店 (以下、『広辞苑』)
- ・『国語大辞典 言泉』(1986) 小学館 (以下、『言泉』)
- ・『日本国語大辞典 第二版』(2000～2002年) 小学館 (以下、『日国』)
- ・『小学館 日本語新辞典』(2005) 小学館 (以下、『小学館新』)
- ・『新選国語辞典 第九版』(2011) 小学館 (以下、『新選』)
- ・『例解学習国語辞典 第十版 ドラえもん版』(2015) 小学館 (以下、『例解学習ドラ』)
- ・『現代国語例解辞典 第五版』(2016) 小学館 (以下、『現代例解』)
- ・『デジタル大辞泉』(2018年6月検索) 小学館 (以下、『デジ』)
- ・『学研 国語大辞典 第二版』(1998) 学習研究社 (以下、『学研大』)
- ・『学研現代標準国語辞典 改訂第3版』(2016) 学研プラス (以下、『学研現代』)
- ・『学研 現代新国語辞典 改訂第六版』(2017) 学研プラス (以下、『学研新』)
- ・『角川新国語辞典 一一六版』(2004) 角川学芸出版 (以下、『角川新』)
- ・『角川必携国語辞典 第十四版』(2016) 角川学芸出版 (以下、『角川必携』)
- ・『集英社 国語辞典 第3版』(2012) 集英社 (以下、『集英』)
- ・『講談社 カラー版 日本語大辞典』(1989) 講談社 (以下、『講談カラー』)
- ・『新潮国語辞典 一現代語・古語一 第二版』(1995) 新潮社 (以下、『新潮現古』)
- ・『新潮 現代国語辞典 第二版』(2000) 新潮社 (以下、『新潮現代』)
- ・『旺文社 国語辞典 第十一版』(2013) 旺文社 (以下、『旺文』)

これらの辞書に掲載されている「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」の意味記述について、類似した分類を適宜総合しつつそれぞれまとめる。

まず、「とんでもない」についての意味記述は以下のとおりである。

- ・事実からかけはなれている。[相手の言葉を否定する際に用いる]
『小学館新』『学研新』『学研大』『旺文』『岩波』『集英』『例解新』『三省堂現代』『言泉』『新潮現代』『新潮現古』『現代例解』『広辞苑』『三省堂』『学研現代』『角川新』『角川必携』『例解学習ドラ』『日国』『大辞林』『デジ』
- ・思いもかけない。意外である。
『小学館新』『旺文』『例解新』『三省堂現代』『言泉』『講談カラー』『新潮現代』『新潮現古』『現代例解』『広辞苑』『新明解』『三省堂』『角川新』『角川必携』『例解学習ドラ』『日国』『大辞林』『デジ』
- ・とりかえしが見つからない。とんだ。
『新選』『新潮現代』『新潮現古』『角川新』『角川必携』
- ・とがめるべきだ。けしからん。

- 『学研大』『大辞林』
- ・ のぞましくない。
『三省堂』
 - ・ 否定的な意味合いでいう。
『小学館新』『語感』
 - ・ とても考えられない。そんなことはない。
あるべき事ではない。あってはならない。
『講談カラー』『広辞苑』『新明解』
『岩波』『例解新』『新明解』『三省堂』『学研現代』『角川必携』
 - ・ ひどく大げさである。
『新選』『三省堂現代』
 - ・ よくない方に並外れている。悪い方向に大きく外れている。
『小学館新』『語感』
 - ・ 程度や常識を（よくない方に）並外れている。
『小学館新』『学研新』『学研大』『語感』『集英』『新潮現代』『学研現代』『角川新』『角川必携』『大辞林』

「とほうもない」についての意味記述は以下のとおりである。

- ・ 現実ばなれ
『小学館新』
- ・ 「途方に暮れる」に同じ。手段が尽きて迷う。
『新潮現代』『新潮現古』『広辞苑』『日国』『大辞林』『デジ』
- ・ 道理・条理・筋道などに合わない。道理・条理・筋道などにはずれている。
『学研新』『学研大』『旺文』『集英』『言泉』『新潮現代』『新潮現古』『広辞苑』『学研現代』『角川新』『学習例解ドラ』『日国』『大辞林』『デジ』『講談カラー』
- ・ あきれるほど大げさだ。
『三省堂』
- ・ ふつうの尺度や常識では考えられない。
『例解新』『角川必携』
- ・ ずばぬけている。図抜けている。
『新潮現代』『新潮現古』『広辞苑』『デジ』
- ・ むちゃくちゃである。めちゃくちゃ。
『小学館新』『岩波』『講談カラー』『角川新』
- ・ なみはずれている。並々ではない。
『旺文』『岩波』『三省堂現代』『学研現代』『大辞林』『デジ』

- ・常識では考えられないほどの／理解しかねるほどの壮大な
『例解新』『角川必携』『新明解』
- ・けたはずれだ。
『小学館新』『三省堂』
- ・程度などがけたちがい、ふつうの程度をはるかにこえている。
『学研新』『学研大』『語感』『集英』『言泉』『現代例解』『角川必携』『日国』

「とてつもない」についての意味記述は以下のとおりである。

- ・道理・筋道・理屈などに合わない。
『学研新』『学研大』『集英』『言泉』『現代例解』『角川必携』『日国』『大辞林』『旺文』
『新明解』『学研現代』
- ・並み外れている。
『岩波』『集英』『例解学習ドラ』『デジ』
- ・ふつうでは考えられない。
『三省堂』『例解学習ドラ』
- ・途方もなく大げさである。
『角川新』
- ・図抜けている。
『言泉』『日国』
- ・度を越えた非常識な意。常識はずれである。
『語感』『広辞苑』『学研新』『学研大』『例解新』『新潮現代』『新潮現古』『三省堂』『角川新』『角川必携』
- ・物事の程度や数量などが常識から外れている。ふつうの程度をこえている。
『小学館新』『新潮現代』『学研現代』
- ・標準より大きいほうに外れている場合に使うことが多い。
『語感』

上述した辞書によって得られた「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」の意味記述を下の表の⁽²⁾ようにまとめる。

とんでもない	とほうもない	とてつもない
程度（や常識）が（よくない方に）並外れている。	程度などがけたちがいで、ふつうの程度をはるかにこえている。	物事の程度や数量などが常識から外れている。ふつうの程度をこえている。
※悪い方向に大きく外れている。	※けたはずれだ。	※標準より大きいほうに外れている場合に使うことが多い。
※（程度や）常識が（よくない方に）並外れている。	※常識では考えられないほどの／理解しかねるほどの壮大な。	※度を越えた非常識な意。常識はずれである。
よくない方に並外れている。	なみはずれである。並々ではない。	並み外れている。
	道理・条理・筋道などに合わない。道理・条理・筋道などに外れている。	道理・筋道・理屈などにあわない。
とても考えられない。そんなことはない。あるべき事ではない。あってはならない。	ふつうの尺度や常識では考えられない。	ふつうでは考えられない。
ひどく大げさである。	あきれるほど大げさだ。	途方もなく大げさである。
	ずばぬけている。図抜けている。	図抜けている。
	むちゃくちゃである。 めちゃくちゃ。	
のぞましくない。		
とがめるべきだ。けしからん。		
思いもかけない。意外である。		
とりかえしが見つからない。 とんだ。		
事実からかけはなれている。 〔相手の言葉を否定する際に用いる〕		
	現実ばなれ	
	「途方に暮れる」に同じ。手段が尽きて迷う。	
否定的な意味合いでいう。		

今回調査した範囲では、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」に共通している意味は

- ・並外れている。
- ・ふつうでは考えられない。
- ・(程度が大きいほうの) 大げさである。
- ・常識はずれである。
- ・程度などがふつうより大きい。ふつうの程度をこえている・外れている。

などが見られる。

一方、「とほうもない」にしか見られない意味は

- ・「途方に暮れる」に同じ。手段が尽きて迷う。
- ・現実ばなれ
- ・むちゃくちゃである。めちゃくちゃ。

などであった。

「とんでもない」にしか見られていない意味は

- ・否定的な意味合いでいう。
- ・よくない方に（並外れている）。悪い方向に（大きく外れている。）
- ・とがめるべきだ。けしからん。
- ・のぞましくない。
- ・思いもかけない。意外である。
- ・とりかえしがつかない。とんだ。
- ・事実からかけはなれている。〔相手の言葉を否定する際に用いる〕

などのように、「否定的・マイナス的な意味合い」が目立っている。

「とてつもない」にしか見られない意味は、本調査範囲では確認されていないが、「図抜けている」という意味は「とてつもない」「とほうもない」にしか見られない。「とほうもない」「とてつもない」に見られるプラス的な意味合いでの「図抜けている」は、「とんでもない」で特徴的に見られる「否定的・マイナス的な意味合い」とは対照的である。

ここで、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」に共通している「程度などがふつうより大きい。ふつうの程度をこえている・外れている」という意味について、さらに内実を今回調査した辞書での意味記述から探りたい。「とんでもない」には「よくない方に・悪い方向に大きく外れている」、「とほうもない」には「けたはずれの」、「とてつもない」に

は「標準より大きいほうに外れている」という記述がそれぞれ見られるが、この三つの語の程度表現はどれも「標準より・ふつうより大きいほうに外れている」という意味合いが含まれていることが分かり、「とんでもない」にだけ「悪い方向に・よくない方に（程度がふつうより大きく外れている）」という意味合いがあることが注記されているのが分かる。また、「程度が（ふつうより）大きい」という文言でそれぞれ示されている細かな差異は、辞書記述の比較だけでは見出せないことも分かった。

3. 考察

本節においては、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」の使用実態を概観し、共起する語句の傾向などを探ることにより、程度表現やその「程度がふつうより大きい」という派生的意味での意味合いの違いなどを明らかにしたい。

3-1. 使用実態の概観

本項においては、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）のオンライン検索国立国語研究所（2019）「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（中納言2.4、データバージョン1.1）を利用し、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」それぞれの連体修飾用法での使用実態の概観を把握する。なお、この段階では、収集する用例は使われている意味にかかわらず、「～こと」「～もの」「～ところ」と共起する以外の用例をできる限り収集しておく。この三者は広く一般的に使われるため、共起する具体的な語句の調査からは外すものである。

調査の結果連体修飾で用いられている「とんでもない○○」「とほうもない○○」「とてつもない○○」の用例は、以下の通りである。

・とんでもない○○

——遠く、運賃、苦痛、お金、金額、額、値段、ほど、高値、安値、高給、価値、大浪、大物、猛暑、無駄遣い、請求、点数、回転数、速さ、痛み、大規模、レベル、力、衝撃、被害、恐怖、大悪人、悪漢、悪女、上司、人間、単純作業地獄、効き目、秘密、問題、間違い、思い違い、見間違い、失敗、暴走、脅迫、侮辱

・とほうもない○○

——金額、額、役料、代償、高値、数値、数、表、貧富の格差、対比、力、大きさ、長さや広さ、拮がり、年月、努力、勇気、浪費、圧迫、悪人、災厄、破滅、非常識、拝金主義、作り話、作り話や捏造

・とてつもない○○

——金額、額、費用、収入、利益、報酬、数、数字、量、高エネルギー、エネルギー、力、精神力、恩寵、喜悅、情熱、勇気、孤独感と恐怖、痛み、高さ、速さ、心ほそ

さ、巨大さ、渋滞、大ホール、大物、大騒ぎ、大事件、大勝利、大風呂敷、気持ちの高ぶり、市場規模、親切、インド料理通、被害、悪意、強運、贅沢、朗報、音、爆発音、地響き、ブーイング、矛盾、謎、怪物、反撃、勢い、計画、宝物、光景、ケシの花畑、鉦脈、告発、話、探偵小説、表記、鴨南蛮、人物、真相、考え方、異変、奇声、困難、錯誤、間違い

3-2. 使用傾向

本項においては、まず国立国語研究所の『分類語彙表—増補改訂版⁽³⁾』(以下、『分類語彙表』)を利用し、3-1に収集した用例の分布傾向を調べる。

3-1に収集した用例を『分類語彙表』で調べた結果は以下の通りである。

・ 1、体の類

{抽象的關係}

- 1.10 事柄—異変、奇声
- 1.11 類 —レベル、効き目、対比、矛盾
- 1.12 存在—秘密、破滅
- 1.13 様相—価値、真相、人物、困難
- 1.14 力 —力、エネルギー、圧迫、精神力、勢い
- 1.15 作用—渋滞、衝撃、圧迫、破滅、拡がり、暴走
- 1.16 時間—年月、速さ、渋滞
- 1.17 空間—遠く
- 1.19 量 —金額、額、値段、価値、点数、数、数値、量、速さ、票、ほど、大きさ、長さ、高さ、(市場)規模、(貧富の)格差

{人間活動の主体}

- 1.20 人間—怪物、人物
- 1.23 人物—大物、悪人、悪漢、悪女、(インド料理)通、人物
- 1.24 成員—上司

{人間活動—精神および行為}

- 1.30 心 —勇気、痛み、情熱、喜び、恐怖、孤独感、苦痛、親切、悪意、ブーイング、対比、考え方、見間違い、問題、間違い、錯誤、思い違い、計画
- 1.31 言語—大風呂敷、数字、朗報、ブーイング、表記、問題、謎
- 1.32 芸術—作り話、探偵小説、(作り話や)捏造
- 1.33 生活—被害、災厄、困難、強運、大騒ぎ
- 1.34 行為—力、人間、努力、人物、間違い

- 1.35 交わり—大勝利、失敗、反撃
- 1.36 待遇—請求、圧迫、親切、脅迫、侮辱、告発
- 1.37 経済—収入、無駄遣い、浪費、お金、値段、安値、⁽⁴⁾高値、費用、価値、高給、報酬、運賃、代償、利益、贅沢
- 1.38 事業—無駄遣い
- {生産物および用具}
- 1.45 道具—宝物
- {自然物および自然現象}
- 1.50 自然—力、エネルギー、音、地響き
- 1.51 物質—猛暑
- 1.52 天地—光景、鉱脈
- 1.57 生命—痛み
- ・ 3、相の類
- {抽象的關係}
- 3.19 量 —大規模、大— (大悪人、大ホール、大事件)、高— (高エネルギー)
- {人間活動—精神および行為}
- 3.30 心 —非常識
- 3.34 行為—非常識

上に示した『分類語彙表』に基づく調査結果によると、「とんでもない・とほうもない・とてつもない」という意味用法が似ている三つの形容詞が連体修飾用法で修飾する語句は、「体の類 > {抽象的關係} や {人間活動—精神および行為}」に属するものが比較的多いことが分かる。さらに、それらの下位分類カテゴリーを見てみると、特に用例が多いのは「{抽象的關係} > 1.19 量」や「{人間活動—精神および行為} > 1.30 心」「{人間活動—精神および行為} > 1.37 経済」に属する語句である。

次に、比較的規範的な日本語で書かれていると考えられる新聞社の記事データベースを利用し、上記した用例（以下、「被修飾語」と称する）について、それぞれ「とんでもない+被修飾語」「とほうもない+被修飾語」「とてつもない+被修飾語」という形で検索する。利用する記事データベースは読売新聞の『ヨミダス歴史館』および朝日新聞の『聞蔵Ⅱビジュアル』である。

以下、検索して得られた結果を主に、三形容詞それぞれの有無、すなわち

- ・とんでもない／とてつもない+被修飾語
- ・とほうもない／とてつもない+被修飾語
- ・とんでもない／とほうもない+被修飾語
- ・とんでもない or とほうもない or とてつもない(三つの形容詞の中の一つ)+被修飾語

・とんでもない／とほうもない／とてつもない+被修飾語

というように5分類する。

3-2-1. とんでもない／とてつもない+被修飾語

検索して得られた結果により、「とんでもない」「とてつもない」とは共起するが、「とほうもない」とは共起しにくい被修飾語には、次のように

レベル、秘密、真相
渋滞、速さ、スピード
遠く
痛み
強運
怪物
大風呂敷

などが見られる。これらの被修飾語の中で、「速さ」「スピード」について考えてみると、「速さ」「スピード」のような被修飾語は、いくら程度が大きくなっても限界があると考えられるものである（日常的な限界もある一方で、天文学的・物理学的にも光速という限界が知られている）。限界があると考えられる被修飾語が「とほうもない」と共起しにくいということは、「とほうもない」の「程度が大きい」という派生的意味には「限界がない」という意味合いが含まれているためと考えられる。大風呂敷も、風呂敷の形状というビジュアル的な限界を想起させる。

怪物や痛みには限界は想起させられないが、逆に言えば限界を感じさせる程度での使用があるという蓋然性がある。名詞の持つ限界性という観点から、精査が必要になる。

3-2-2. とほうもない／とてつもない+被修飾語

検索して得られた結果により、「とほうもない」「とてつもない」とは共起するが、「とんでもない」とは共起しにくい被修飾語は、次のように

困難
圧迫
破滅
年月

刺激、孤独感、悲しみ
勝利
報酬、代償、贅沢

などが見られる。この類には「勝利」「報酬」「贅沢」などプラス的な意味を持つ被修飾語と、「破滅、孤独感、悲しみ」などマイナス的な意味を持つ被修飾語と、「年月」「代償」などプラスのでもなくマイナスのでもない意味を持つ被修飾語と、三つのタイプで用いられているものが見られる。

3-2-3. とんでもない／とほうもない+被修飾語

検索して得られた結果により、「とんでもない」「とほうもない」とは共起するが、「とてつもない」とは共起しにくい被修飾語は、次のように

暴走
数値
作り話
高値
非常識
脅迫
侮辱

などが見られている。この類はほとんどマイナス的な意味を持つ被修飾語なのであり、批判的なニュアンスが含まれていることが分かる。

3-2-4. とんでもない or とほうもない or とてつもない (三つの形容詞の中の一つ) + 被修飾語

今回検索して得られた結果により、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」三つの形容詞の中で一つの形容詞としか共起しない被修飾語は以下のようなものである。

- ・とんでもない+上司／捏造／見間違い／騒ぎ／安値／高給／運賃／効き目／点数
- ・とほうもない+対比／災厄
- ・とてつもない+表記／朗報／ブーイング／探偵小説／大騒ぎ／奇声／親切／告発／情熱／喜悦／悪意

この結果から見てみると、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」ともにマイナス的な意味を持つ被修飾語と共起することが分かる。その一方で、プラス的な意味を持つ被修飾語は特に「とてつもない」と共起しやすいことが指摘できる。

なお、この結果の中で一つ注目したいのは「とんでもない安値」である。被修飾語「安値」の対義語「高値」は、「とんでもない」「とほうもない」とも共起するが、「高値」の反対方向にある「安値」の程度を表す際には「とんでもない」が用いられていることになる。そこで、被修飾語の中で「高-」「大-」などのような語の対義語「低-」「小-」についても、それぞれ「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」とあわせて検索してみる。「とんでもない／とほうもない／とてつもない+低-／小-」を『ヨミダス歴史館』『聞蔵Ⅱビジュアル』で検索してみた結果は以下の通りである。

とんでもない低額（『聞蔵Ⅱビジュアル』）

とんでもない低空飛行（『ヨミダス歴史館』『聞蔵Ⅱビジュアル』）

とんでもない低め（『聞蔵Ⅱビジュアル』）

とんでもない問題意識の低さ（『聞蔵Ⅱビジュアル』）⁽⁵⁾

とんでもない小悪党（『ヨミダス歴史館』）

得られた用例は少ないが、程度が小さい方向にある「低-」「小-」のような被修飾語は、「とんでもない」と共起しやすいことが見られるのである。

3-2-5. とんでもない／とほうもない／とてつもない+被修飾語

検索して得られた結果により、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」三つの形容詞いずれとも共起している被修飾語およびそれぞれの用例数は、下の表のように示すことができる。表の中で用例数の表記は（ ）の中に入れ、“『ヨミダス歴史館』で得られた用例数／『聞蔵Ⅱビジュアル』で得られた用例数”のように示す。一部の用例は見出しが出ているが、実際の用例（記事全文）を確認することができない制約のある部分であるため、「～」を用いて用例数を表記する。例えば、「(2～3)」のような場合は検索して得られた用例数（見出し）が3例で、その中の1例が（記事全文）確認することのできないものであり、「(～100)」のような場合は検索して得られた用例数（見出し）が多いため、全ては確認できないが、ランダムで確認したものであることを示している。用例数は最大100例である。

〈分類語彙表〉	とんでもない	とほうもない	とてつもない
1.13 様相	価値 (1 /)	価値 (2 / 2)	価値 (1 /)
1.14 力	精神力 (1 /)	精神力 (/ 1)	精神力 (/ 2)
	勢い (0 ~ 1 /)	勢い (/ 2)	勢い (1 ~ 2 / 1)
1.15 作用	衝撃 (1 /)	衝撃 (/ 2)	衝撃 (0 ~ 1 / 5)
	広がり (/ 1)	拡がり 広がり (3 ~ 5 / 4)	広がり (4 ~ 5 / 2)
1.19 量	金額 (~10 / ~15)	金額 (~15 / ~34)	金額 (~8 / ~16)
	額 (~17 / ~19)	額 (~21 / ~20)	額 (6 ~ 7 / ~15)
	大きさ (4 / 4)	大きさ (5 ~ 8 / 9)	大きさ (8 / 15)
	高さ (0 ~ 1 / 4)	高さ (/ 4)	高さ (1 / 2)
	深さ (/ 1)	深さ (2 ~ 3 /)	深さ (1 / 1)
1.30 心	誤解 (~46 / ~57)	誤解 (1 / 1)	誤解 (0 ~ 1 /)
	問題 (9 ~ 10 / 12)	問題 (/ 2)	問題 (2 /)
	間違い (~50 / ~100)	間違い (0 ~ 1 /)	間違い (1 / 2)
	計画 (6 / ~ 9)	計画 (12 ~ 15 / 12)	計画 (1 / 4)
1.31 言語	数字 (12 / 9)	数字 (23 / 38)	数字 (16 / 18)
1.34 行為	力 (~11 / ~18)	力 (3 ~ 6 / 10)	力 (~25 / ~20)
	努力 (0 ~ 1 / 3)	努力 (2 ~ 3 / 4)	努力 (4 ~ 5 / 8)
	人間 (9 ~ 10 / 5)	人間 (0 ~ 1 /)	人間 (0 ~ 2 /)
	人物 (2 ~ 7 / 16)	人物 (1 ~ 2 / 2)	人物 (2 / 1)
1.50 自然	エネルギー (4 / 1)	エネルギー (11 ~ 15 / 11)	エネルギー (~14 / ~30)
1.52 天地	光景 (2 / 10)	光景 (1 /)	光景 (0 ~ 1 / 2)

この表をもとに、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」どれとも共起している被修飾語の中で、「とんでもない／とほうもない／とてつもない」のどれかと共起している用例が最も多い被修飾語を見してみる。すると、「とんでもない」は「誤解」「問題」「間違い」「人間」「人物」などと共起しやすく、「とほうもない」は「金額」「計画」「数字」などと共起しやすく、「とてつもない」は「力」「努力」「エネルギー」などと共起しやすい傾向があることが分かる。

これらの結果から分かるように、「とんでもない」と共起しやすいのは「誤解」「問題」「間違い」など『分類語彙表』の「1.30心」というカテゴリーの中で、マイナス的な意味合いを帯びており、なおかつ⁽⁶⁾感覚・感情などを表さない語や、「人間」「人物」など人柄を表す語がある。「誤解」「問題」「間違い」などの語にはすでにマイナス的な意味合いが含まれているが、「上司」「人間」などの語は「とんでもない」と共起するとマイナス的な意味合いになる。こういう点からすると、「とんでもない」の程度表現にはマイナス的な意味合いが含まれていると考えられる。

「とほうもない」については、3-2-1の「とんでもない」「とてつもない」とは共起するが、「とほうもない」とは共起しにくい被修飾語によって得られた「限界が考えられる被修飾語に『とほうもない』とは共起しにくい」という仮説を裏付けられるのように、「とほうもない」と共起する用例が最も多い「金額」「数字」などは限界が見えない・限界が考えられにくく、つまりその程度は考えられないぐらいの大きさなのであり、「とほうもない」が表れる「程度の大きいこと」は「限界が見えないぐらいの程度」という意味合いが読みとれる。

「とてつもない」と共起する用例が最も多いのは「力」「努力」「エネルギー」などであるが、これらの語は「とてつもない」と共起する場合に、マイナス的な意味合いなどが特に読み取られず、「とてつもない」本来の「常識から外れている」などの意味合いに「(常識から外れているその)程度が大きいことを表す」意味が読み取られており、「程度が大きいことを表す」意味での「とてつもない」は「常識から外れているぐらい、ふつうより大きい程度」なのであろう。

第二節から本節までの考察結果を総合的に見てみると、「とてつもない」の「程度が大きいことを表す」派生義にはマイナス的な意味合いもプラス的な意味合いも特に強くないのである。そのため、「とてつもない」は三つの形容詞の中で比較的プラス的な意味を持つ被修飾語(例えば、3-2-4の「親切」「情熱」「朗報」「喜悦」など)と共起しやすい現象がみられているのである。

4. まとめ

今回の考察結果により、以下の仮説が得られる。

- (1) 「とんでもない」は否定的・マイナス的な意味合いでの程度が大きいことを表すのに使われている傾向が見られ、「とんでもない」の「程度が大きい」派生義には否定的・マイナス的な意味合いが含まれている。
- (2) 「とほうもない」の「程度が大きい」派生義には限界が考えられていないぐらい・限界が見えないという意味合いが含まれている。
- (3) 「とてつもない」の「程度が大きい」派生義には肯定的・プラス的な意味合いも

否定的・マイナス的な意味合いも特に強くないため、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」三つの形容詞の中で、プラス的な意味を持つ被修飾語と共起しやすい傾向が見られている。

- (4) 程度が小さい方向にある被修飾語（例えば、「安値」「低さ」「低-」「小-」など）は「とんでもない」としか共起しやすくない。

今後はこれらの仮説にもとづき、「とんでもない」「とほうもない」「とてつもない」の程度表現についてより詳しく検証・考察したい。

注

- (1) この三つの語の品詞については、「形容詞」としている辞書も、「連体詞」としている辞書もある。
- (2) この表においては意味がほぼ等しいものを同じ列におくことを原則とするが、同じ列においても意味が微妙な違いが見られるものは「※」をつける。
- (3) 国立国語研究所資料集 14『分類語彙表—増補改訂版』（2004年）大日本図書株式会社発行
- (4) 「高値」は『分類語彙表』に収録されていないが、「安値」の対義語であり、分類は同じと考えられるため、筆者の判断で「安値」と同じ分類に入れる。
- (5) この用例は「とんでもない問題」を検索したときに得られたものだが、本項の主旨に合う例のため、合わせて示す。
- (6) 本稿においては、感覚・感情を表す語について「情熱」「喜悦」「孤独感」「悲しみ」などのような語とする。

(しゃおほういうえん 本学大学院博士課程後期課程在学学生)